

特別支援学校（病弱）と中学校通常学級

仲間と共に学ぼう、繋がろう

【仲間とのかかわりの中で自分を発揮できる交流のために】

国語、英語、理科、体育など教科学習の交流及び共同学習を行いました。授業内容や進度について事前に連絡を密に取り合い、学習進度を合わせながら当日の授業に備えました。事前に招待状をもらったことで、交流への不安が和らいだようでした。

当日、英語で自己紹介をする場面では、趣味の話をするるとみんなから「すごい！」と言われたり、ペア学習で友達と意見を出し合ったりしたことで、みんなの前で自分の意見を発表することができ、達成感を感じられる充実した時間となりました。



英語科「A Mother's Lullaby」



国語科「慣用句 ことわざ 故事成語」

■ねらい■

特別支援学校生徒Aさん

- ・物語の内容を聞き取り、ペアの生徒と協力しながら、絵カードを正しい順に並び替えることができる。（英語科）
- ・普段とは違う場所で、多人数での活動を体験する中で、友達と会話をしたり、かかわったりすることができる。（相互理解・かかわり）



中学校生徒

- ・物語の内容を聞き取り、絵カードを正しい順に並び替えることができる。（英語科）
- ・Aさんのことを理解し、自分からかかわろうとすることができる。（相互理解・かかわり）

【特別支援学校生徒Aさんの声】

初めは少し緊張しましたが、とても楽しかったです。英語の授業では、会話のほとんどを英語で行っていて、驚きました。国語の授業では、グループで協力して慣用句の短文を作りました。難しいと思ったけれど、みんなでいろいろ意見を出し合うと、どうやって作ればよいか分かりました。中学校との交流は、あと1回なので、最後はいつもより楽しみ、何かを学べるような会にしたいです。



特別支援学校（知的障がい）と小学校通常学級

みんなと一緒に いいね うれしいね

【共に学ぶ喜びを実感できる交流のために】

「長く無理なく続く」自然な交流及び共同学習ができるよう心掛けています。両校の教員による打ち合わせを繰り返し、小学校の授業の中で、Bさんができることを探りながら計画や準備を進めました。音楽の音作りや体育の表現運動など、単元はそのまま、活動内容を工夫することにより、双方に学びのある活動を行うことができるようになりました。

当日は、Bさんを含め、班で協力して自分たちの音を作って楽しむ姿が見られました。子どもたちは自分がどんなことをするとよいかそれぞれが考えて行動し、子どもたちからのつぶやきに優しさを感じました。



音楽科「おかしなすきなまほう使い」



体育科「表現運動・リズムにのって」

■ねらい■

特別支援学校児童Bさん

- ・歌に合わせて「まほうをかける音」を出すことができる。（音楽科）
- ・友達の様子を見ながら、一緒に活動しようとするすることができる。（相互理解・かかわり）

小学校児童

- ・班で協力し、音の組み合わせを工夫して「まほうをかける音」を作ることができる。（音楽科）
- ・友達のかかわりを見て、どのようなかかわりができるか考えることができる。（相互理解・かかわり）



【小学校教員の声】

子どもたちはBさんをにこやかに迎え、手遊びから始まって、楽器を使いながら音作りを楽しく行うことができました。Bさんがいろいろな楽器を手にとって子どもたちと一緒に活動している姿はほほえましく、また、子どもたちが優しく声をかけたり、自分が持っている楽器と交換してあげたりする様子がとてもうれしかったです。係の子どもたちがそれぞれの仕事を率先して取り組む様子も見られ、みんなが楽しいと思える音楽の活動となってよかったです。



特別支援学校（知的障がい）と小学校通常学級

楽しかった！ また、会いたいな

【互いに認め合い学び合う交流のために】

交流を始めるに当たって、特別支援学校の担任が小学校へ事前に出向いて、特別支援学校の紹介やCさんが学校で頑張っている様子を子どもたちに伝えました。子どもたちは熱心に話を聞き、自分たちが計画する交流授業に向けて、Cさんの好きな歌や遊びについて積極的に質問をし、楽しい会にしようという気持ちが表れていました。

当日は、子どもたちが毎日練習しているダンスを発表すると、Cさんはダンスを真剣に見つめ、動きに合わせて一緒に踊ろうとしました。Cさんと子どもたちの心が通った瞬間でした。



総合的な学習の時間「Cさんと楽しもう」



総合的な学習の時間「Cさんと楽しもう」

■ねらい■

特別支援学校児童Cさん

- ・好きな歌や遊びを友達と一緒に楽しみ、自分なりの表現方法で気持ちを伝えることができる。（特別活動）
- ・友達や教師と一緒に活動に参加することができる。（相互理解・かかわり）

小学校児童

- ・Cさんと自分たちが楽しく活動できる内容を考え、自分の役割を果たすことができる。（総合的な学習の時間）
- ・Cさんが一緒に活動できるように、言葉かけや誘導をしたり、笑顔で接したりすることができる。（相互理解・かかわり）



【小学校児童の声】

- ・Cさんがゲームに参加しやすいように、「Cさん、こっちだよ」と声をかけることができました。
- ・Cさんが教室を出たり、活動に参加できなかつたりしたときも、Cさんがいつでも戻って参加できるようにしました。
- ・中学校へ行っても交流したいです。



特別支援学校（知的障がい）と小学校特別支援学級

大好きな活動をみんなと一緒に

【仲間とふれあう楽しさや喜びを実感できる交流のために】

不安や緊張から母親からなかなか離れられないDさんのために、知っている活動や大好きな活動を交流内容に取り入れました。交流内容を早い段階で決めることで、Dさんが見通しを持って安心して活動に取り組めるような事前学習や環境作りをすることができました。

当日は、子どもたちが「Dさんも一緒にやろうよ」「次はDさんの番だよ」と積極的に声をかけてくれたこともあり、Dさんは、母親から離れて、みんなと一緒に活動する姿が見られました。



生活単元学習「なかよし交流会」



生活単元学習「お楽しみ会」

■ねらい■

特別支援学校児童Dさん

- ・友達とかかわり合いながら、歌やゲームに取り組むことができる。（特別活動）
- ・友達の言葉かけに応じたり、一緒に活動したりすることができる。（相互理解・かかわり）

小学校児童

- ・体を動かしたり、ゲームを楽しんだりすることができる。（生活単元学習）
- ・Dさんのがんばっていることやよさを知り、進んでかかわろうとすることができる。（相互理解・かかわり）



【特別支援学校教員の声】

Dさんはこれまでの交流では、母親からなかなか離れることができず、子どもたちとかかわろうとする姿はほとんど見られませんでした。しかし、今回の交流では、Dさんの好きな活動であるボウリングや手遊び『いわしのひらき』が内容に含まれていたり、また、子どもたちが「Dさんも一緒にやろうよ」と積極的に声をかけてくれたりしたこともあり、母親から離れ、笑顔で取り組む姿が多く見られました。学校へ戻ってからも、交流会での活動が楽しかったのか、クラスの児童に「塩ふってパツ！」と『いわしのひらき』を自分から披露していました。

